



真宗大谷派  
(東本願寺)

桑名別院 本統寺

# ご坊さんだより

2023年

9月



福島プロジェクト 2023

## 福島と三重

食事でつながる



さる8月16日〜20日まで「福島のごどもたちを三重へプロジェクト」が開催されました。日程中、桑名別院にも宿泊し、その際の朝食と夕食を桑名別院婦人会によってご用意いただきました。

どうしてもお弁当や外食が続くと栄養が偏ったり、塩分を摂り過ぎてしまいます。婦人会の愛情いっぱいのお手製ご飯は体に沁みわたり、三重の郷土の味、家庭の味を皆で共有する楽しい時間を過ごすことができました。活動については



→

暁天講座にて、早朝より受付、駐車整理等、準備運営にご尽力いただきました方々には厚く御礼申し上げます。

暁天講座にて講師より頂きましたお話の内容(要約)については、次頁をご覧ください。



9月は7日に「仏具のお磨き」を8時半から、12日に婦人会を中心とした「清掃奉仕活動」を9時から予定しています。ご参加ください。



## 第57回 暁天講座

さる7月13日〜17日、5日間にかけて第57回暁天講座を開講いたしました。開講にあたり、7月6日には有志の方々によって「仏具のお磨き」を、11日には桑名組門徒会や婦人会が中心となって「清掃奉仕活動」をいただきました。



13日

同朋大学教授

鶴見 晃

つるみ あきら



桑名別院内の講師控室の掛け軸に安田理深先生の書で「衆生貪瞋煩惱中能生清淨願往生心」という言葉がありました。

衆生貪瞋煩惱中能生清淨願往生心

この言葉は、善導大師のお言葉です。「私たちの煩惱の中に清淨なる往生を願う心が生じる」。善導大師が『観無量寿經』という經典を解釈された際に「一河白道の比喻」で信心の歩みを表しました。私たちの煩惱の間に細い四五寸ほどの白道がある。お釈迦様、阿弥陀様の二尊の呼びかけに励まされて、細い信心の道、白道を歩んでいくのが信心の歩みであるということです。なぜ、白道はそんな狭い道なのか。

1100年間で「自己責任」という考えが一般化した気がします。背景には、海外で日本人が捕らえられる事件があったこと、または経済格差が広がる中で首相が「困った時はまずは自分で頑張る（自助）、その次に家族で協力（共助）、最後に国の制度を（公助）」とおつ

しやられたことがあるかと思えます。年老いた時には「後は子や孫におまかせ」という考え方であったところ、今は子や孫に迷惑をかけないように資金を準備し、お墓じまいやお内仏じまいする方を見かけます。「自分自身で何とかしなければならぬ」と考える自己責任の時代は、大きな不安の時代であるとも言えます。

### 南無阿弥陀仏のひびき

不安は「安心がない」と書きます。私たちが離れられない煩惱、分別し比べる心、好き嫌いを作って肩身を狭くする生き方、条件を作り続ける在り方によって白道は狭いのです。しかし、狭くても、仏様の知恵を聞く力（聞光力）、お念仏によって、往生を願う心、安心というものをいただいで生きる道（白道）はあるのです。どんな私でも受け止めて生きていける、そんな安心なる道を歩んでほしいということが「南無阿弥陀仏」ということから教えられているのでしょ。



14日

株式会社 With Midwife CEO

岸畑 聖月

きしはた みづき

助産師



第二次世界大戦後に失った「産婆」という職。「産婆」は地域に暮らす人々の繊細な悩みの声に寄り添い、命の営みを守ってきた。その人たちの働きを現代社会に生きたものとした。

### 助産師の視点から いのちに寄り添うということ

日本では病院で安全に出産ができるようになり、病院の中で救える命は救われています。しかし、病院の外でも、産後うつや育児放棄、母親の自死という社会課題が起っています。孤独な子育ての問題を「孤育て」と称し、助産師が病院外でも命に寄り添う働きをとれるような社会を目指し、会社を設立しました。

その一つとして、企業に勤める女性や家族、社会全体の健康を支援する「The CARE」というサービスを提供しています。女性の妊娠・出産だけでなく、男性も当事者意識の高まる世の中で、育児や育休の相談、また未婚率の増加に伴い、誰に相談していいかわからないデリケートな悩みの相談先として、性別や世代を超えて助産師が多様な働く人々に寄り添っています。

発足した活動のすべては、私自身の生い立ちと、多くの命に携わってきたからこそ見える現代社会の課題、そして助産師の可能性を掛け算して生まれています。

広く年齢や性別を超えて、孤独に向かい合いたい。決して新しい社会を作りたいわけではなく、以前あった「産婆」のような、地域に根付いて、そこに生きる人々の心身の健康に寄り添える働きを再構築したいのです。

このような信念を持つ私と、お寺に集まって宗教をご縁として寄り添い合う皆さんとで、何か接点を感じます。



「私だけでは出来なことも、皆さんなら出来るかもですね。」

岸畑先生のお話で、誰かが誰かのSOSの声を聴くことの重要性を感じました。そして、自分の胸の内を共有したり、誰かの声に耳を傾けることができる場が「お寺」という場所であることを再確認できたように思います。

15日

滋賀県湖南市 正念寺 住職  
大谷中学・高等学校 講師

乾文雄

いぬい ふみお

普段、教員として中学生や高校生を対象に教鞭を執っていますが、ユーモラスな例えを交えながらでないに興味を示さなかったり、素朴な疑問をぶつけてくる学生に日々鍛えられています。

例えば、私たちが手を合わせ、念仏を称える際に目になっている仏具ひとつを取っても、形あるものにはすべて意味があります。三具足である鶴亀には、一説によると、悪いところばかり見てしまつて自分を認め戒める存在としての意味があります。



## もんもんかい 聞・問・開

〜無明の闇を破する教え〜

(右記のとおり題されたプリントを基にお話しいただきました。)

仏法と出遇うことの意味や、親鸞聖人よりいただいている善悪の教えに対し、改めて私たちがどう生きて、どう在るかを見つめることが大切です。そして「あなたの最期の言葉は何?」と問いかけら

れた時、自分が亡くなる時の最期の言葉は何でしょうか。

自分のこだわりばかり気を取られていると、本当に大事なことを、そうでないことがひっくり返ってしまう。自分の在り方に絶望することもある私たちですが、「善導独明仏正意」という叫びをただひとつの光とした時、絶望を感じずにはいられなかった自分に希望を見いだせるのです。



人生においては、後悔しても消しゴムが無く、できることはまず立ち止まることです。自己に振り回されそうになった時に、必ず一度立ち止まることのできる教えがあり、それがお念仏です。

「教えをきちんと聞いて、自分を問題にする。そして、問い得た自分を安心して開いていく」問いをもつことに大切な意味があります。そのどこかで手を抜くと、人間関係がざらつくのかもしれない。

16日

名古屋市昭和区 惠林寺 住職

荒山信

あらやま まこと

「大切な人とのお別れは、終わりではなく始まりです」30年前の桑名別院輪番の挨拶を未だに思い出すことがあります。お別れを通して、仏様のお声を聴かせていただく。そして、お浄土との繋がりをもちことができるのです。

## おのおのみな一等なり

〜浄土に照らされて〜

お浄土では、すべての人が一等です。二等や三等はありません。何かができるから尊いのではなく、一人ひとりの存在自体が尊いのです。光明というお浄土の働きは、人として生まれてきたこと、生きている意味を見失わないように、私たちがいつだって照らしてくださいます。そのことを念仏申すことで立ち止まり確認できるのです。

親鸞聖人のお書きになった『正信偈』には、「光」という漢字がたくさん出てきます。「普放無量無邊光」とは、分け隔てない光が私を私として照らすということです。人はどうしても、人を選んでしまいますが、阿弥陀様は人を選び

ません。阿弥陀様そのものが光であり、ここに居ていいと居場所を与えてくださっています。

私たちは、悪いことをした時の反省はできて、善意でやったことの反省はできないものです。

戦争がまさにそうだと言えます。ハラスメントも同じです。時に、正しさは暴走し、立ち止まらなくなる。人間の進歩・発展の中で判定や評価され、悪戦苦闘し悩む私たちにもいつだって光はあります。



『阿弥陀経』に出てくる周利槃特という方は大変物覚えの苦手な方でした。周りの人間や、実の兄にまで愚かだと言われたそうです。周利槃特は、自分は愚かだが、掃除ならできると、掃除では誰より心を込めて磨き上げる方でした。ある時お釈迦様が、「自分を愚かだと知っている人は、愚かではありません」とおっしゃったことで、周利槃特は「自分もここに居ていいんだ」と受け止めることができ、「光」に照らされていることに気が付いたのでした。

17日

僧侶・看護師・看護教員  
スピリチュアルケア師・ケアマネージャー  
たまおき みようゆう  
**玉置 妙憂**



外科の看護師として医療現場に携わり、医療とは対極にあるともいえる自然死を誰よりも近い存在である夫で経験し、僧侶として活動をはじめました。現在、非営利団体の代表としてスピリチュアルケアを専門に活動しています。

スピリチュアルケアとは、心の深いところにある悩みや不安の声に何度も耳を傾け、聞くことでその人の痛みに寄り添い緩和するケアの方法です。これらの仕事を通し、生きること死ぬことについて、わかったことが二つあります。

### 生き方、逝き方を問う

### いのちの終焉の現場から

ひとつは、外科の看護師時代、数々の生命の不思議を目の当たりにして「死ぬときは決まっているのではないか」ということ。そのため、誰も経験したことがない死に対して不安や焦りはありますが、いずれ確実に死ぬるので思い悩む必要はないんじゃないかな。

いか。また、他人の死の方に意味をつけ、評価しようとする悪い癖が私たちにある。と気づきました。また、終活と題して自分の死に方まで決めすぎてしまいますが、あくまで流動的に最期を迎えることで、自分や周りを否定せず逝けるということなのです。



ふたつめは、「死んで終わりではない」ということ。人は亡くなってから他人の心の中で存在が大きくなります。生きて半分、他人の心の中に残って半分だと感じます。

医療用語でスピリチュアルペインという言葉があります。潜在意識の中の漠然とした死の恐怖や、生きることへの不安を自身で確認してしまったり、誰かに話さず一人で抱えることは大変苦しいと思います。しかし、それを他人に話すとお話を受けた方もつらくありません。

介護や看護、育児でも自分以外の人のケアをしようとする人は、その人もケアをされなければなりません。互いに声をかけあって、話を聞くことがスピリチュアルケアになるとされています。

スピリチュアルケアをする上で大事なことは、必ず話を聞き流すことです。そして悩みに対し、方法論で返答しない。人は必ず時が来れば死ぬこと、死んで終わりではなく残された人の中で存在が大きくなることもあるということをお一度考えてみましょう。

死に対し、ゆっくりと流動的な感覚を持ち、そこから生まれるものを大事に生きていきたいものです。また、自分の軸のようなものを見つけ、信じるものがある人も、穏やかに強く生きることができるといでしょう。



### 第42回 真宗公開講座

さる6月25日に行われた「第42回 真宗公開講座」について、講演の内容を連載で紹介しています。前号では仏教や浄土について触る中で、「皆が大事だと確認し合ってきた經典から、私たちは何を学ぶか」という課題をいただきました。引き続き、その課題についていただいていたと思います。

### 法蔵菩薩の発願とその成就 ③

石川県野々市市 常観寺 住職

藤場 俊基

浄土というものを説く經典が生まれますが、浄土が本当にあるかどうかに限らず、そのことを聞いてもらう事によって何かを感じてもらおう。それによってお釈迦様が言おうとしたことのごく一部だけでも受け取ってもらって、皆さんが生きることに関与させてもらう。それが經典の生まれてきた訳です。



## 「浄土」を説く 經典のはじまり

浄土を説く經典は、主人公である法蔵菩薩が、浄土というのを考え、これをなんとか皆さんに知ってもらおうとした物語です。その事自体は法蔵菩薩の物語を考えた人が考えた訳ですが、色々と難しい勉強をしても成功しなかった人が沢山いた中で、誰でも簡単に仏になれる方法はないかと考え、また皆にわかるようにしないといけないと考えたのです。

法蔵菩薩は菩薩となる前は王様でした。そして、『正信偈』の「在世自在王佛所」の部分に表されていますが、世自在王仏のところでは世自在王仏に出会い、説法を聞いたとき、王様を辞めたくなくなったのです。王様の仕事が嫌だったわけではありませんが、もっと大事なことをしたいといけないと思い、王様を辞めて、道を求める人となり、名前も法蔵と変えた。これが物語のスタートです。



そこで、まずひとつ考えなければいけないことが、仏の道を求めるにあたり、王様のままでは出来ない事があるという事に気が付いたことです。失敗するために生きている人はいないはずなので、誰もが「人生の成功」を目指して生きてきたでしょう。成功のイメージとして王様は頂点ではないでしょうか。今では、社長になりたい。商売を成功させたい。スポーツであれば、優勝したい。賞を獲りたいなどありますが、いずれにしても目指すのは常に上です。



では一体、王様には何が出来ないのか。そこに仏教というものを考える大きな手掛かりがあります。王様になっても解決しない問題があるということが語られています。

お釈迦様も元は王子様で、29歳の頃に色々な事があって出家しました。出家を逆に読むと家出です。何のあてもな



く、家を離れました。そのままいけば王様になれたものの、王子様の身分を辞め、なぜ出家したのか。法蔵菩薩は王様になってから辞めています。これは王様になっていても結局辞めていたのだろつというお釈迦様の未来を表しています。そこで書かれている説法は、お釈迦様が出家した時にこういふ事が聞きたかったのではないかと、分かればよかったのではないかといいこと。それが『大經』の内容になっています。

### 王様でも解決できないこと

「生まれてきた苦しみ、年老いる苦しみ、病気になる苦しみ、死んでしまう苦しみ」は王様になっても解決できません。この四苦(生老病死)の中で、生まれたい苦しみ(生苦)はどう考えていいか難しいところもありますが、「こんな生まれ方したくなかった。」ということ

があるかと思えます。頑固な親の下、貧乏な家、仲の悪い両親のところに生まれたくなかった、私達の仲間の内では、お寺に生まれたくなかったという者もいます。生まれた時に与えられた条件に承服できないということがあります。それを考えると、「生苦」というものの意味が掴める気がします。

また、「四苦八苦」という言葉があるように、さらに四つ苦しみがあります。

### 「愛別離苦(あいべつりつう)」

愛するものと別れないといけない苦しみです。お葬式だけでなく、好きな者同士が一緒にいられなくなるのが沢山ある。また、その逆が次の苦しみで、

### 「怨憎会苦(おんぞうかい)」

嫌な人のそばから離れられない、憎しみ合う者同士が一緒にいないといけないという苦しみです。

### 次に「求不得苦(ぐふとく)」

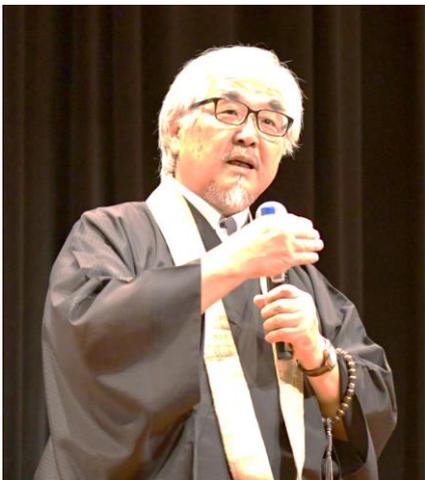
求める物事が手に入らない苦しみです。「LGBT」の中で起る問題や、結婚したいのに相手がいないことなどです。

### 最後は「五蘊盛苦(ごいんじやうこ)」

この苦しみの一部を紹介すると、人間の知性が優れ、感覚が鋭くなったことよって、先を考えて心配する苦しみです。

以上の八つの苦しみは、国王でも根本的な解決が出来ないので。

国王は誰でも代わりがいますが、この八苦の問題は気が付いた者が向き合うしかなく、仏の説法を聞いた時、仏のようになることしか解決出来ない事がわかった。これが出発点です。そして、悟りを開いて仏になって何をしたいかということ、あらゆる人々の迷いや苦しみを根本的に解決したいということです。この根本的にとということが大事です。喧嘩を仲裁しても、また喧嘩したり、他の人と喧嘩する事だってあります。ひとつひとつを解決するモグラ叩きなら王様にも出来るかもしれない。しかし、根本的に解決するとなると仏になるしかないとわかりました。これが発願です。



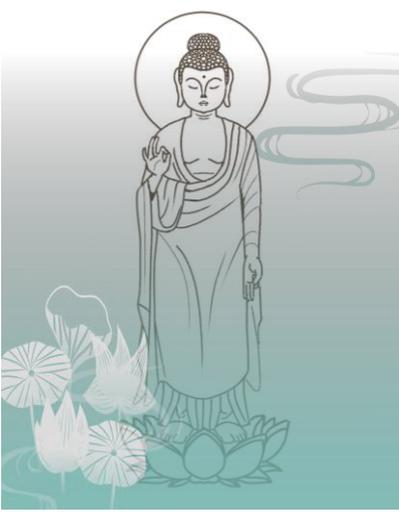
そして、自分が仏になると同時に、誰もが簡単に仏になれる。というよりはなる、なろうとする道がはっきりすることが一番良い。そしてそのことを、みんなが同じように思い立ってくれたら良いのですが、それが難しいと考えていった結果が浄土です。そこに行きさえすれば必ず皆を仏様にするという「成仏」を浄土の中に納めました。ここに行きさえすれば良い、そういう世界を用意して待っているというアイデアです。

### 「浄土」に往く そこで生まれる



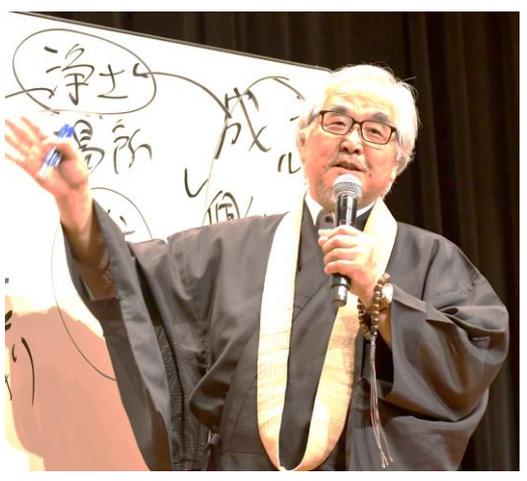
私たちは浄土＝阿弥陀様の世界だと聞きますが、浄土は元々仏様の国全部を表します。他の仏様は、自分がどういう具合になるかを大事にするのですが、そこがどういう場所になってほしいかという国土のことはあまり真剣に考えていない。浄土のこと、自分の国をつくるということが一番大事に考えられたのが阿弥陀様だけでした。個ではなく場所を大事にした。なにかに成るのは一人です

が、行くとすれば皆で一緒に行けるのです。場所を用意してそこに行くという考え方で、仏教を考えていかれた。誰でも仏になれるということ、誰でも行ける国土を用意して、そこで仏になりましょうという発想に変えられました。そして「往く、そこで生まれる」という考え方ができる。つまり、「成仏」ということを「往生」ということに横滑りさせたのです。



浄土というのは四十八の願いで示されています。この四十八願というのは、お釈迦様がもし理想の世界を作るとすれば、きつこう考えたに違いないと説法した人が考えました。

しかし、問題はごうやうって、ぼやっと生きている凡夫の私たちに浄土を知らせるかです。これが一番難しい。そこでまず名前を宣伝するようにしました。テレビの「マーシャルの効果と一緒に聞き覚えが



生まれます。諸仏に、皆が羨ましくなるように私の名前を呼んでいてほしいと願った、これが四十八願の十七番目の願いです。頼んだ法蔵菩薩は物語の存在ですが、諸仏は法蔵菩薩の気持ちに分かるので、阿弥陀如来に南無と敬称をつけて「南無阿弥陀仏」と呼び始めた。そして、賛同してもらおう内に菩薩ではなく如来の名前が広まった。これが法蔵菩薩の考え方に賛成する「しるし」となり、本人が気付いていなくても、周りの人がその「しるし」に気付いていけば良い、いわば「南無阿弥陀仏」は法蔵菩薩の願いがその人に届いたということを示しているのです。

(次号に続く)

## 謹んで追悼の意を表します

さる7月15日、作家の高史明氏(コ・サミョン、本名…金天三(ヘキム・チョンサムン)が神奈川県大磯町の自宅にて逝去されました。91歳でした。

高史明氏は1932年、山口県下関市に在日朝鮮人二世として生まれ、3歳にして母と死別し、様々な職を転々として、そして、1971年、小説家としてデビューされました。75年に発表した『在日朝鮮人としての生い立ちをつづった自伝『生きる』』にて数々の賞を受賞しますが、その年、一人息子の岡真史さんが12歳で自死を遂げます。息子の遺稿詩集『ぼくは12歳』を妻の岡百合子さん(作家)と共に刊行し、注目

を集めます。その後、親鸞聖人の『歎異抄』の教えと出遇い、仏教研究者となり、数々の著書を残され、各地で講話活動をされました。

桑名別院暁天講座において、左記の通り連続でご講演いただき、講座の顔を担っていただきました。ご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

## 別院公開



第18回 真宗公開講座にて 高史明(1999年)  
講題「真実のいのちを生きる-人間とは何か-」

## 高史明【暁天講座 ご講演歴】

回	年度	講題
11	1976	人間、その未来への問い
21	1986	いのちを見つめて-親鸞聖人に学ぶ-
26	1991	君は空の笑顔
27	1992	無懺無愧のこの身に
28	1993	暗闇のどん底から
29	1994	暗闇のどん底から光を仰ぐ
30	1995	ただ念仏のみぞまこと
31	1996	暗闇のどん底に立って 真実の光を求める
32	1997	深きいのちに生かされて
33	1999	親鸞は父母の教養のためとて
34	2000	人間、その生と死と真実の喜び
35	2001	現代の生と死を考える
36	2002	往く人に聞き、還る人に学ぶ-死に学ぶ生の真実-
37	2003	二河白道を往く
38	2004	念仏は行者のために非行非善なり -真のいのちと知恵を目指して...私とは何か-
39	2005	世の中安穏なれ
40	2006	世の中安穏なれ-真実の平和を求めて-
41	2007	世の中安穏なれ-いま、仏の願いを聞く-
42	2008	生きる-人間とは何か-
43	2009	三願転入-いま深く真実を見つめる- 如来誓願の葉は、よく知遇の毒を減する -現代の危機の根っこを抉る-
44	2010	「天変地異」と見てよい異常が続く。 -如来誓願の智慧を深く生き抜きたい-
45	2011	「三願転入」真実は地獄のただ中 から出現してくる
46	2012	恒久平和を念じて「阿闍世に合掌」
47	2013	無根の信なり
48	2014	

## ご案内

「秋季彼岸会」を左記の日程でお勧めします。私たちが生きる迷いの世界を「此岸」と言い、迷いの世界を超えた覚りの世界である阿弥陀仏の浄土を「彼岸」と言います。浄土に還っていかれた「亡き方々」は、諸仏となつて、「彼岸」から「此岸」に生きる私たちの在り方を照らし、問いかけ、覚りの世界に導いてくださっています。「彼岸会」は、阿弥陀仏の恩徳や諸仏(亡き人)の願いに出遇い、自分自身の生活を振り返る大切な仏事です。ぜひご参詣ください。



# 桑名別院 秋季彼岸会

2023年  
9月20日(水) ~ 26日(火)

各日、別院本堂にて 午後一時より 勤行  
勤行のあと、左記のとおり 法話があります。(午後三時まで)

20日(水) 講師 池田 徹  
桑名市 西恩寺 住職  
講題 「不安」を生きる

23日(土) 講師 中川 和子  
四日市市 常願寺 住職  
講題 お彼岸に憶う  
私の「後生の一大事」

24日(日) 講師 大橋 宏雄  
鈴鹿市 浄願寺 衆徒  
講題 出世の大事



# 9月の行事予定



## 法話（又は講演）のご案内

## 法要（お勤め）のご案内

◇ 人生講座 会費 500 円  
 9月3日（日） 午前7時～8時  
 講師 **山田 有維**  
 （菰野町 西覺寺 住職）

※毎月第一日曜日開講。次回は10月1日（日）、  
 講師 高木 彩（四日市市 信光寺 住職）

◇ 晨朝（おあさじ） 毎日午前7時～  
 ◇ 祥月経 毎日午前9時～  
 13、28日は午後1時～、又31日は30日に兼ねます。



他の時間に祥月経をご希望の方、  
 または年忌等、各種お参りをご希望の方は  
 寺務所までお問い合わせください。

◇ 同朋会 会費 500 円  
 9月1日（金） 午後1時～3時  
 講師 **長澤 隆司**（桑名別院輪番）

毎月第一金曜日開講。

※ 諸事情により来月は第一木曜日となります

次回 10月5日（木） 午後1時～3時



◇ お夕事 毎日午後4時～  
 ◇ 御命日のお参り  
 前住上人 13日 / 親鸞聖人 28日

前 日：午後1時より速夜  
 御命日：午前7時より晨朝、午前9時より日中

## ◆ 秋季彼岸会

9月20日（水） 午前9時初日中、午後1時 総経  
 勤行後 法話 講師 **池田 徹**

21日（木） 午後1時 総経

22日（金） 午後1時 総経

23日（土） 午前9時中日中、午後1時 総経

勤行後 法話 講師 **中川 和子**

24日（日） 午後1時 総経

勤行後 法話 講師 **大橋 宏雄**

25日（月） 午後1時 総経

26日（火） 午前9時結願日中、午後1時 総経

＊ 詳しくは本紙の7頁をご覧ください。

◇ 桑名別院法話のつどい  
 9月13日（水） 午後1時～3時  
 講師 **渡邊 憲明**  
 （桑名市 圓授寺 住職）



◇ 親鸞聖人御命日のつどい  
 9月28日（木） 午後1時～3時  
 講師 **西藤 孟志**  
 （桑名市 慈航寺 衆徒）



◇ 晨朝法話  
 毎朝 午前7時 法話 別院列座  
 （13日、28日の御命日は輪番）

## お知らせ

◇ 9月 7日（木） 午前8時30分～（2時間程）



**仏具のおみがき**（本堂にて）

持ち物：作業のできる服装

◇ 9月12日（火） 午前9時00分～（2時間程）

**清掃奉仕活動**

（婦人会を中心に別院境内にて）



真宗大谷派（東本願寺）

**桑名別院 本統寺**

〒511-0073 三重県桑名市北寺町4-7番地

寺務所 平日 9:00～17:00

TEL (0594)-22-0652 FAX (0594)-22-0681

メール kuwanabetsuin@gmail.com

